

高橋 稜 たかはし りゅう 心理學・倫理學者。明治十八年五月四日香川縣二馬郡和木村生れ、昭和四十二年五月六日歿（一八五—一九六）。第一高等學校を經て、明治四十一年東京帝國大學文科大學哲學科卒。元良勇次郎の下で心理學を専攻、師の『心理學概論』著作の助手を務め、その歿後編纂整理し會う出版。大正二年師の次女靜と結婚。四年以降日本大學、天台京大學、法政大學に講義。十一年宮本和吉、上野直昭、小龍虎之助との共編『岩波哲學辭典』（十月二十五日岩波書店）出版。十二年第一高等學校教授、昭和五年東北帝國大學法文學部哲學科教授となる、倫理學を擔當。十年文部省在外研究員としてドイツに赴き哲學を研究。二十一年東北大學を停年退職後、成城大學學長兼任。翌年學位を受く。二十七年學智院大學教授。

著書に『心理學』（大正六年七月十日岩波書店）『哲學叢書』（『心理主義』（昭和十年七月五日岩波書店）『大思想文庫』（『道德教育』（昭和十九年四月十日岩波書店）。歿後に『高橋稜小論集』（昭和四十二年七月十五日高橋秀俊刊）。雑誌『心』第二十一卷第七號（昭和四十二年七月一日生成会）は『高橋稜追悼』を含む。

